

知床の冬季の魅力向上を支援する協働型道路整備・運用方策の実践

(株) ドーコン 交通部 正会員 ○及川 宏之
北海道開発局 釧路開発建設部 豊島 真生
北海道開発局 網走開発建設部 沢田 孝之

(株) ドーコン 都市環境部 角田 洋
北見工業大学 社会環境工学科 正会員 高橋 清
(株) ドーコン 交通部 正会員 金田 武

1. はじめに

2005 年 7 月世界自然遺産に登録された知床へのアクセスルートである一般国道 334 号斜里～ウトロ間において、地域・ユーザーと道路管理者が、「使いやすい道路」を目指し、協働型の道路の整備・運用を進めている。

この取り組みは、①ニーズにあった継続的な整備・運用、②地域を熟知した道路利用者との協働、③創意工夫によるコスト削減、を狙いとした地域協働による道路マネジメント活動である。

本稿では、冬の知床を訪れる観光客の安全性確保と満足度向上を図るため、地域と協働で検討し、実施した取り組みを紹介するとともに、今後のあり方に関して考察する。

2. 知床における冬季景観の課題

世界自然遺産である知床は、優れた景観資源を有する地域であり、アクセスルートの一般国道 334 号からは、「知床連山」、オホーツク海に沈む「夕日」、さらには、冬季に沿岸を覆い尽くす「流氷」など、魅力ある景観を堪能できるルートである。

地域・ユーザーと道路管理者が協働で道路の整備・運用、利活用を議論する『安全で楽しい知床の道路利用を考える会』（以下、『考える会』と称す）では、「流氷」をゆっくり楽しめる海側のパーキングがない、山側にあるパーキングでは景色を堪能できない、海側へ横断する歩行者がいて危険、海側への路上駐車が発生し危険という問題が指摘されていた。



【検討メンバー】
・ 斜里町
・ 斜里町日の出自治会
・ 東オホーツクシーニックバイウェイ
連携会議
・ 斜里バス株式会社
・ NPO 法人知床斜里町観光協会
・ 北海道開発局

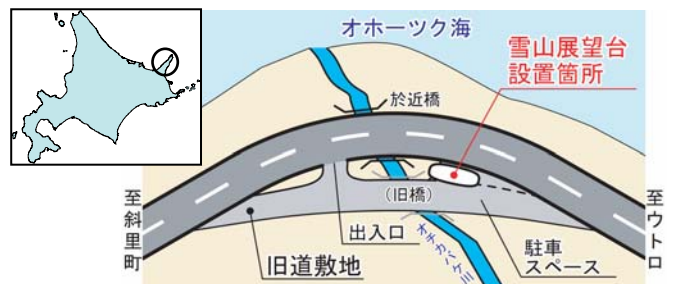
図－１．『安全で楽しい知床の道路利用を考える会』

3. 臨時ビューポイントパーキングの設置の経緯

(1) 既存スペースの有効活用

知床らしい景観をゆっくり楽しむためには、景観の優れた箇所で、かつ、海側にビューポイントパーキングを設置することが望ましいと考えられるが、地形的制約により、海側に有効活用が可能なスペースを見出すことは困難であった。

一方、知床連山や 180 度の海岸景観を楽しめる景観の優れた日の出地区において、一時的に利用可能な道路改良工事後の旧道敷地があり、山側ではあるものの、この敷地の有効活用について検討を行った。



図－２．活用した旧道敷地

(2) 雪山造成による展望台の設置

活用した旧道敷地は、景観の優れた箇所に位置しているが、山側のスペースであるため、間近で海を見たいというニーズに応えられておらず、パーキングの利用者が海側へ横断する可能性が残されていた。

このため、『考える会』において、利用者の満足度を高め、横断を抑制する仕組みとして、高い視点から流氷や眺望を楽しめる展望台を設置すること、また、臨時的なビューポイントパーキングであることから、展望台も「やぐら」等のコストのかかる構造物ではなく、除雪・排雪を活用した「雪山」を造成することを出案し、高さ 3 m 程度の雪山展望台を設置した。



図－３．雪山展望台

キーワード：地域協働，冬期，景観，パーキング，交通安全

連絡 先：〒004-8585 北海道札幌市厚別区厚別中央 1 条 5 丁目 4-1 TEL011-801-1520

(3) ポスター・案内看板による情報提供

駐車場の設置と利用者の増加を目的に、『考える会』では、臨時ビューポイントパーキング設置を知らせるポスターやチラシを作成し、知床斜里町観光協会や斜里町ウトロ地区の皆さまの協力により、道の駅とウトロのホテルなどにポスターの掲示とチラシの留め置きを行い、観光客へのPRを実施した。

また、パーキングの 250m 手前および出入口に案内看板を設置するとともに、ドライバーに歩行者の横断を注意させる看板も併せて設置した。

4. アンケート調査による設置効果の分析

『考える会』では、設置効果の把握を目的に、臨時ビューポイントパーキング利用者が対象のヒアリング調査を実施した。その結果、利用者は、沿道の案内看板や道の駅の掲示板、地元の人から情報を得て立ち寄りしており、ポスター・案内看板による情報提供は有効であった。

また、雪山展望台の設置により、障害物に遮られずに流水や海が見たい、写真撮影したいといったニーズに応えたことで、利用者の評価は、「満足」と「やや満足」で約 6 割を占め、利用者の概ねの満足感が得られている。

さらに、パーキングがなかった場合の行動では「安全と思われる場所で路上駐車をする」が約 7 割を占めており、今回の取り組みが路上駐車の抑制につながり、安全性の向上に有効に寄与したと考えられる。

5. おわりに

地域・ユーザーと道路管理者が『考える会』において協働で検討した結果、既存スペースの有効活用や雪を活用した低コストの展望台設置、情報提供など、ニーズにあった整備・運用を実践することができた。また、今後は、間近で流水を見たいという根強いニーズに応え、民間敷地の活用や新規用地確保による海側へのパーキングと眺望を確保する展望台の設置、地域協働による管理について、継続して検討することとなった。

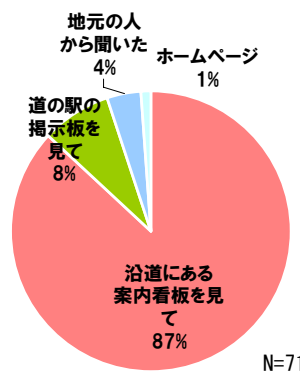
道路が抱える問題の発見、創意工夫によるニーズにあった道路整備・運用方策の実現と継続に至るプロセス、スピード感、地域協働の大きな成果であり、他ケースにも適用可能な活動であると思われる。



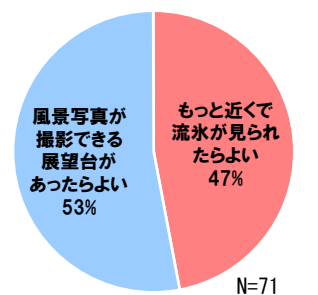
図－4. 展望台設置前後の景色



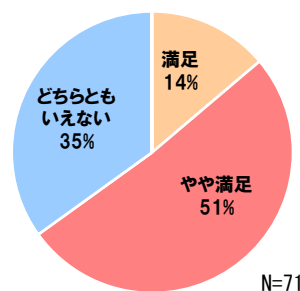
図－5. 情報提供方法



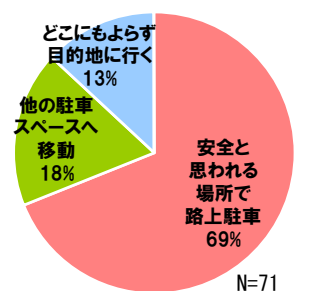
図－6. 立ち寄りのきっかけ



図－7. 流水景観のニーズ



図－8. パーキングに対する満足度



図－9. パーキング設置前の動向

最後に、本稿作成の礎となった『安全で楽しい知床の道路利用を考える会』のメンバーである斜里町日の出自治会、東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議、斜里バス株式会社、NPO 法人知床斜里町観光協会、斜里町の皆さまに感謝の意を表します。